

1 函館市の概要

函館市は、室町時代の享徳3年（1454年）、津軽の豪族 河野政通が宇須岸（ウスケシ：アイヌ語で湾の端の意）と呼ばれていた漁村に館を築き、この館が箱に似ているところから「箱館」と呼ばれることになり、その後、明治2年（1869年）、蝦夷が北海道となり、箱館も函館と改められた。



本市は、北海道南端の渡島半島南東部に位置し、温暖な気候、恵まれた自然、集積した都市機能、さらには歴史と伝統に培われた文化、豊富な人文資源など数多くの優れた特性を背景に、北海道と本州を結ぶ交通の結節点として、また、南北海道における行政・経済・文化の中核都市として成長してきた。

このような中、昭和63年の青函トンネル開通記念博覧会や平成元年の「国際観光都市宣言」を契機に、恵まれた美しい自然と歴史的文化遺産を生かした観光資源・施設の整備や、航空路線網の拡大など交通アクセスの充実を図り、歴史とロマン溢れる街として多くの方々に親しまれる国際観光都市としてのまちづくりを進めてきた。

また、平成16年12月に戸井町、恵山町、榎法華村、南茅部町と合併し、豊かな海を擁する新たな函館市となり、平成28年3月には、北海道新幹線の開業によりさらなる飛躍の時を迎えた。

市制施行	大正11年(1922年)8月1日
面積	677.87 km ² (R5.4.1現在)
人口	241,895人 (住民基本台帳人口 R5.6末現在)
地勢	渡島半島の南東部に位置し、東・南・北の三方を太平洋・津軽海峡に囲まれ、西は北斗市・七飯町・鹿部町と接している。